

(書式1)【候補者用】

① 立候補者の 姓名と所属	大野 浩一 国立研究開発法人国立環境研究所 環境リスク・健康領域
② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)	私はこれまで水道水質の化学物質や放射性物質の健康リスク評価管理の研究、また、大気や水を中心とした環境媒体における化学物質の健康リスクと生態リスクの評価管理については研究に加えて実務も行ってきました。これら比較的近いと考えられる専門分野においても、それぞれの分野において守りたいもの、守るべきものが異なり、リスク評価手法も大きく異なっております。さらにリスク管理になると管理主体もさまざまになり、それぞれの部分最適化による管理が行われる事が多いと考えます。 日本リスク学会は、様々な専門分野あるいは実務経験を持った方が「リスク」というキーワードを基に、それぞれの分野の不確実な科学的知見を社会活動や政策にどう活用していくかについて分野横断的な議論を行っていく重要な場であると考えます。それぞれの分野独自のリスク評価管理を尊重しながらも、分野横断的あるいは社会全体にとって重要なリスク学について、学会の場を活用して発展させていくことに貢献したいと思っております。
② 本学会における 活動歴	<ul style="list-style-type: none"> ・学会誌に論文、総説等 4 報を掲載 (2013, 2013, 2021, 2023) ・年次大会企画セッションのオーガナイザーとして、「利根川水系ホルムアルデヒド水質事故をめぐる考察ーリスクガバナンスの視点から(2013 年)」、「『環境基準等の設定に関する資料集』のレギュラトリーサイエンス的価値を考える(2022 年)」を企画、開催 ・編集委員(2022 年～) ・2023 年「環境基準等の設定に関する資料集」作成グループ代表として、日本リスク学会のグッドプラクティス賞を受賞 (https://www.nies.go.jp/eqsbasis)
④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)	2000 年東京大学大学院博士課程修了、博士 (工学)。北海道大学 (工学) 助手、大阪大学 (工学) 准教授、国立保健医療科学院上席主任研究官、国立環境研究所主席研究員を経て 2021 年より同環境リスク科学研究推進室室長。

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者 名	大野 浩一
② 推薦者の 姓名と所属	蒲生 昌志 国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門
③ 推薦理由 (400 字程度)	大野氏は、東京大学大学院を卒業後、複数の大学や研究機関において、大気汚染物質、浄水処理技術・水道水質、資源枯渇・温暖化の問題など、化学物質を中心に複数種のリスク評価・管理に関する研究に従事してきた。現職の国立環境研では、環境行政に近いところで研究に取り組んでいる。2023 年には「環境基準等の設定に関する資料集」作成グループ代表として、本学会のグッドプラ

クティス賞を受賞するなど、日本リスク学会においてもその業績は高く評価されている。また、WHO による書籍 “Management of radioactivity in drinking-water” (WHO, 2018) の発行に貢献したり、OECD の複数の作業部会（暴露評価やリスク管理など）に常連として参加するなど、国際的なプレゼンスも有している。

以上のように、大野氏は、理事として日本リスク学会におけるリスク学の発展に大きく貢献する経験と実績を有していることから、強く推薦するとともに、その活躍に大いに期待するところである。